

 Creativity & Challenge

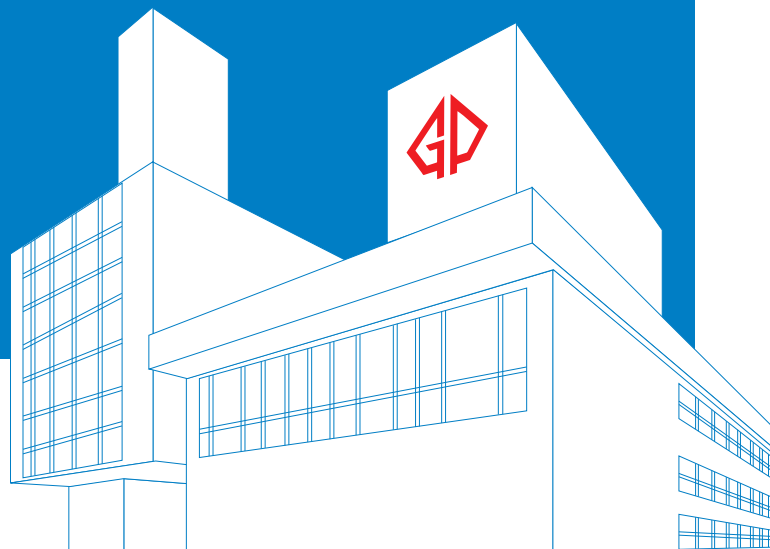
**JASDAQ**  
証券コード：6267

株主・投資家の皆様へ

平成23年7月期 第**50**期

2010.8.1 ▶ 2011.1.31

# 中間報告書



## 第2四半期決算のポイント

### Point 1 上半期は計画対比やや未達

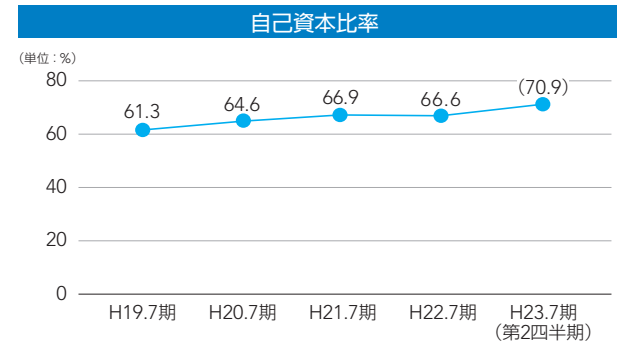
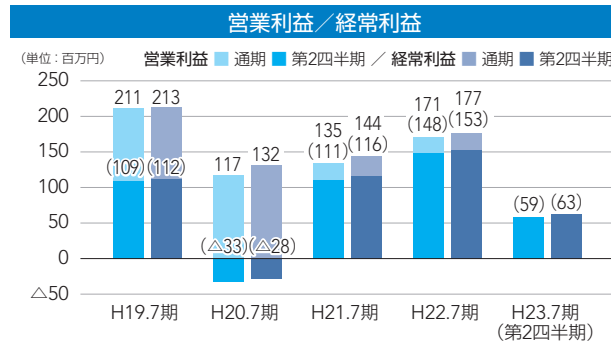
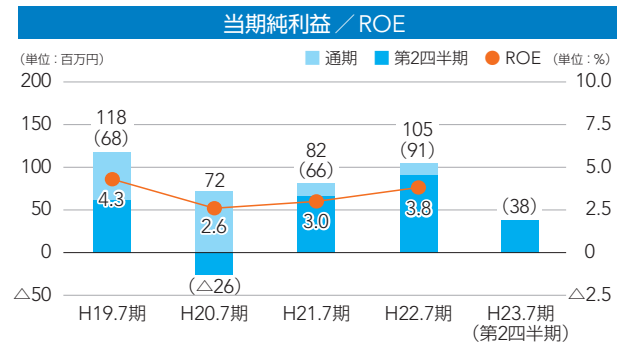
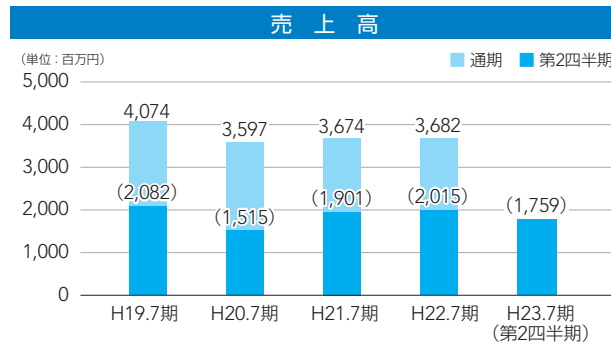
一部予定案件における売上計上の期ずれも影響し、計画をやや下回りましたが、受注高は前年同期を上回りました。

### Point 2 自己資本比率が7割超に拡大

流動資産の減少により総資産が減少する中、仕入債務の減少と利益剰余金の増加を得て、自己資本比率が前期末の66.6%から70.9%に拡大しました。

### Point 3 通期業績は増収増益の見通し

第3四半期以降の業績挽回を見込み、期初の計画数値を維持。売上高および各利益において3期連続の成長を達成する見通しです。



## 株主・投資家の皆様へ

# 中期経営計画の総仕上げとして 目標数値の達成に全力を挙げます。

株主の皆様におかれましては、日頃より当事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。ここに、当社第50期 第2四半期累計期間（平成22年8月1日から平成23年1月31日まで）における営業状況と通期の見通しをご報告させていただきます。ご一読の上、当事業へのさらなるご理解とともに、今後の成長にご期待くださいますようお願い申し上げます。

### 第2四半期の営業状況と業績

この上半期の国内経済は、企業収益の改善や設備投資に回復傾向が見えはじめました。しかしながら、円高の進行や株価の下落、雇用情勢の厳しさ、デフレ傾向などにより、全般的には先行き不透明な状況が続きました。包装機械業界では、依然として顧客企業が設備投資に対する慎重姿勢を継続しており、厳しい受注環境にあります。

そうした中で当社は、3か年にわたる第2次中期経営計画の最終年度を迎え、将来の飛躍に向けた成長基盤の再構築を進めています。具体的な重点施策としては、新規顧客と新マーケットの開拓、新機種の拡販、そして海外販売の強化に取り組みつつ、収益性の向上を目指しています。

その結果、第2四半期までの営業状況は、高価格機種を中心に受注高が増加し、販売台数についても拡大を果

たしました。ただし、大型案件が減少したことや、売上予定案件の一部が下半期にずれ込んだことなどにより、販売金額は前年同期に比べ減少しました。

以上により、当第2四半期の業績は、売上高1,759百万円（前年同期比12.7%減）、営業利益59百万円（同60.2%減）、経常利益63百万円（同58.4%減）、四半期純利益38百万円（同58.3%減）となりました。

### 下半期の見通しと通期業績予想

第3四半期以降の見通しとしては、引き続き厳しい受注環境が続いていくものと思われます。しかし、当社の営業成績につい

代表取締役社長 **梅森 輝信**



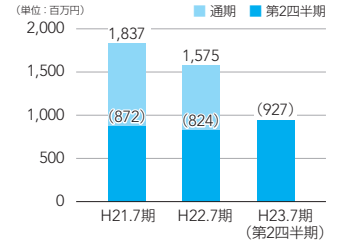
## 品目区分別の状況

### 給袋自動包装機（ガス充填自動包装機含む）

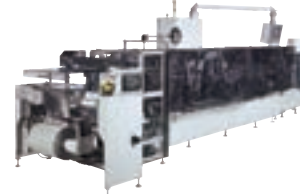


**927** 百万円  
前年同期比112.5%

ガス充填自動包装機の需要回復により販売台数が増加したため、売上高は前年同期比12.5%増の927百万円となりました。

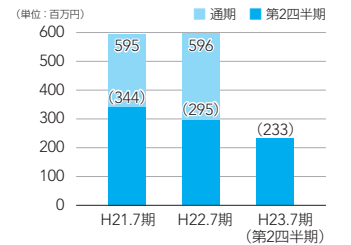


### 製袋自動包装機



**233** 百万円  
前年同期比79.3%

販売台数は同数でしたが、高価格機種の実績が減少したため、売上高は前年同期比20.7%減の233百万円となりました。

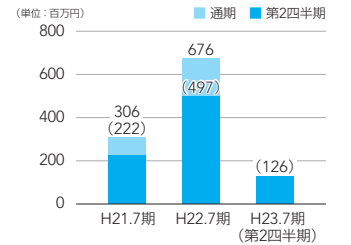


### 包装関連機器等

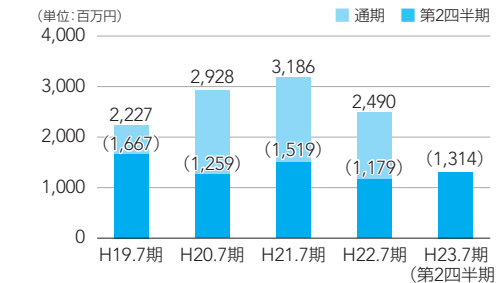


**126** 百万円  
前年同期比25.4%

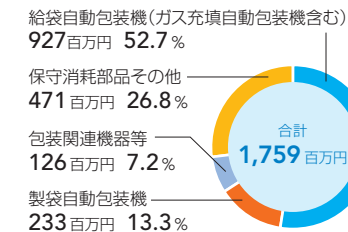
包装システムで大型案件（1億円以上の案件）の実績が減少したため、売上高は前年同期比74.6%減の126百万円となりました。



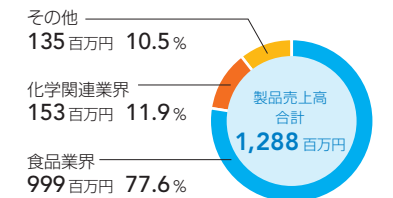
### 機械受注高



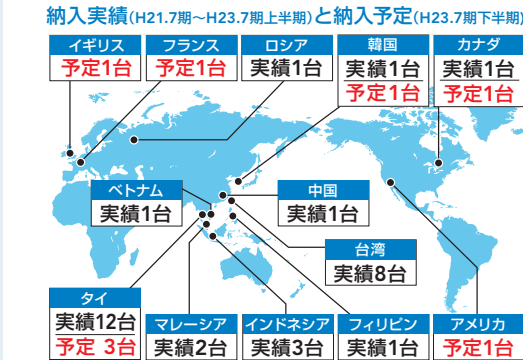
### 品目別売上高



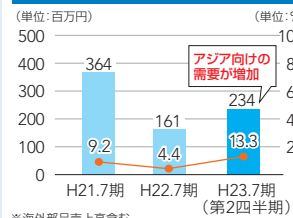
### 最終ユーザー業界別売上高



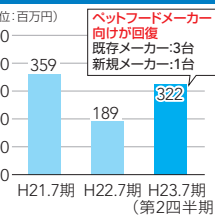
### 海外マーケット開拓への取り組み



### 海外売上高\* /売上高構成比



### 海外機械受注高



ては、受注の増加状況および期ずれ案件の売上計上予定を勘案し、上半期のマイナスをカバーすることが可能で

あると見込んでいます。

そのため通期業績は、期初計画通りの売上高3,900百万円（前期比5.9%増）、営業利益215百万円（同25.3%増）、経常利益220百万円（同24.2%増）、当期純利益130百万円（同23.3%増）を予想しています。

当社は、第2次中期経営計画の総仕上げを果たすべく、これらの目標数値の達成に全力を挙げてまいります。そして、積極的な営業展開および海外マーケット開拓強化、コスト削減と効率化による収益性の向上を遂げ、次の成長に向けたステップアップを図っていく考えです。

### 株主の皆様への還元

当社は、安定配当の維持により、株主の皆様のご支援に報いることを利益還元の基本方針としています。今回の中間配当は当方針に基づき、予定通り1株当たり3円50銭（前年同水準）にて実施させていただきました。また、期末配当につきましても同額を予定しています。引き続き業績の向上に努め、皆様への利益還元を拡充できるよう努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### Topics 当社WEB・IRサイトが昨年に続き外部評価を受賞

当社のWEBサイト・IRサイトが、外部評価において優良サイトとして受賞しました。日興アイ・アール(株)と大和インベスター・リレーションズ(株)がそれぞれ独自に診断した評価結果によるもので、いずれも昨年に続く受賞になります。今回の受賞を励みに、今後とも皆様にとって有益な情報開示に努めてまいります。





# ゼネラルパッカーの技術力

「創造と挑戦」による持続的な発展を目指すゼネラルパッカー。その成長性の源泉であり、多くの分野でトップシェアを実現する「技術力」について、4つのポイントでクローズアップします。

## ① 国内最高水準のガス置換技術 ～削り節用・ナッツ類用包装機のシェアは圧倒的No.1

食品の品質・風味を長期保持するために、内容物の充填とともに窒素ガス(N<sub>2</sub>)や炭酸ガス(CO<sub>2</sub>)などの不活性ガスを封入する技術です。高能率なガス充填包装を可能とするダブルロータリー式技術を確立。経済的なガス使用量で、残存酸素濃度0.5%以下という高置換率を実現しているのは、独自のオープンガスフラッシュ方式です。

削り節用・ナッツ類用分野ではNo.1シェアをキープ。ペットフード用など他分野にも展開中です。



## ② チャック付袋対応機種ラインナップ ～サイズ・形状・材質・機能など幅広いテーマをカバー

コンビニやスーパーの食品売り場でよく見かけるチャック付きのスタンドパウチ商品。このパッケージングを世に広めるための一翼を担っているのも、当社の包装技術です。

テーマは、キャンディやグミ、健康食品、小麦粉など商品ごとに多種多様なサイズ・形状・材質への対応と、機能の向上。変化し続ける消費者の先を行く食品メーカー。そのビジネスを包装技術でサポートする存在として、当社は豊富な機種ラインナップを提供しています。



## ③ 包装システムのトータルプランニング ～システム最適化で多様化・高度化するニーズに対応

当社のパッケージングシステムは、搬送から計量・充填、包装、検査、集積・梱包まで、あらゆるプロセスを一貫するトータルプランニングとして提案しています。

複数のメーカーが関わっていた工程を当社が全て対応することで、パッケージングの合理化・効率化を果たし、コスト低減と短納期を実現。また、独立系ならではの自由度で、お客様にとって最適な機器を選択し、システムを構築。多様化・高度化するニーズに対応します。

実績例  
・輸液バッグ包装システム  
・ドリップ式コーヒー包装システム 等



## ④ 医薬品・医療機器包装の信頼性 ～人の命に関わる医療現場を包装技術でサポート

多くの分野にわたる包装の世界でも、特に高度な要求に対応しているのが、人の命に関わる医薬品・医療機器関連。アンプル、粉末、錠剤などの各種医薬品、シリンジ、チューブ、針などの医療機器や輸液バッグを取り扱う医療現場からは、安全・衛生面の徹底追求はもちろん、医師や看護師の作業負担を軽減するパッケージングの工夫も求められています。医療分野でのビジネスは、当社の技術への高い信頼性を示していると言えるでしょう。

■ 輸液バッグ包装システム  
・ガス充填包装 ・バッグの受取/搬送/挿入/包装

医薬品包装例  
・プラスチックアンプル  
・錠剤(素錠・PTP包装品)  
・粉体薬品 等

医療機器包装例  
・シリンジ  
・輸液チューブ  
・医療用針 等





## 財務諸表

### ■ 第2四半期貸借対照表

科目	当第2四半期 会計期間末 2011.1.31 現在	前第2四半期 会計期間末 2010.1.31 現在	前期 (第49期) 2010.7.31 現在
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b> <span style="color:red">Check 1</span>	<b>2,965,513</b>	<b>3,331,835</b>	<b>3,207,995</b>
現金及び預金	1,338,135	1,547,050	1,753,987
受取手形及び売掛金	850,470	973,513	661,771
たな卸資産	582,055	634,180	657,060
未収入金	129,496	111,964	79,516
その他	65,544	65,332	55,799
貸倒引当金	△ 188	△ 207	△ 139
<b>固定資産</b>	<b>987,307</b>	<b>979,252</b>	<b>988,204</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>879,935</b>	<b>905,534</b>	<b>899,958</b>
建物及び構築物(純額)	574,758	608,853	592,968
土地	280,603	280,603	280,603
その他(純額)	24,573	16,078	26,385
<b>無形固定資産</b>	<b>16,608</b>	<b>7,754</b>	<b>10,153</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>90,762</b>	<b>65,962</b>	<b>78,093</b>
<b>資産合計</b>	<b>3,952,820</b>	<b>4,311,088</b>	<b>4,196,200</b>

**Check 1**

当第2四半期会計期間末の流動資産は、未収入金が増加したものの、現金及び預金とたな卸資産が減少したこと等により、前期末比242百万円の減少となりました。

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当第2四半期 会計期間末 2011.1.31 現在	前第2四半期 会計期間末 2010.1.31 現在	前期 (第49期) 2010.7.31 現在
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>1,078,376</b>	<b>1,400,172</b>	<b>1,335,447</b>
支払手形及び買掛金	667,612	950,067	878,434
未払法人税等	23,480	62,057	69,809
賞与引当金	41,955	36,826	31,264
製品保証引当金	8,908	13,194	8,245
その他	336,418	338,026	347,692
<b>固定負債</b>	<b>65,181</b>	<b>53,173</b>	<b>61,524</b>
退職給付引当金	31,272	26,093	31,034
役員退職慰労引当金	33,880	27,030	30,450
その他 <span style="color:red">Check 2</span>	28	50	39
<b>負債合計</b>	<b>1,143,557</b>	<b>1,453,346</b>	<b>1,396,971</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>	<b>2,799,382</b>	<b>2,850,990</b>	<b>2,792,153</b>
資本金	251,577	251,577	251,577
資本剰余金	282,269	282,269	282,269
利益剰余金	2,308,552	2,318,568	2,301,151
自己株式	△ 43,016	△ 1,423	△ 42,844
<b>評価・換算差額等</b>	<b>4,495</b>	<b>5,982</b>	<b>3,998</b>
その他有価証券評価差額金	4,495	5,982	3,998
<b>新株予約権</b>	<b>5,384</b>	<b>769</b>	<b>3,077</b>
<b>純資産合計</b>	<b>2,809,262</b>	<b>2,857,741</b>	<b>2,799,228</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>3,952,820</b>	<b>4,311,088</b>	<b>4,196,200</b>

**Check 2**

負債合計は、前期末比253百万円の減少となりました。これは主として、仕入債務と未払法人税等の減少により、流動負債が減少したことによるものであります。

### ■ 第2四半期損益計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当第2四半期 累計期間 2010.8.1 ~ 2011.1.31	前第2四半期 累計期間 2009.8.1 ~ 2010.1.31	前期 (第49期) 2009.8.1 ~ 2010.7.31
売上高	1,759,687	2,015,227	3,682,568
売上原価	1,317,113	1,458,180	2,665,619
売上総利益	442,574	557,046	1,016,948
販売費及び一般管理費	383,477	408,383	845,030
営業利益	59,096	148,662	171,917
営業外収益	5,676	5,607	10,327
営業外費用	965	850	5,084
経常利益 <span style="color:red">Check 3</span>	63,806	153,419	177,159
特別利益	—	—	56
特別損失	6,574	—	—
税引前四半期(当期) 純利益	57,231	153,419	177,216
法人税、住民税及び 事業税	21,545	59,746	78,240
法人税等調整額	△ 2,389	2,326	△ 6,416
法人税等合計	19,156	62,073	71,823
四半期(当期)純利益	38,075	91,346	105,392

**Check 3**

損益は、販売費及び一般管理費が前年同期比24百万円減少したものの、売上高の減少と売上総利益率の低下により売上総利益が前年同期比114百万円減少したことから、経常利益は前年同期比89百万円の減少となりました。

### ■ 第2四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当第2四半期 累計期間 2010.8.1 ~ 2011.1.31	前第2四半期 累計期間 2009.8.1 ~ 2010.1.31	前期 (第49期) 2009.8.1 ~ 2010.7.31
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 351,262	293,007	582,917
投資活動による キャッシュ・フロー	66,156	△ 132,775	△ 85,809
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 30,811	△ 31,404	△ 104,392
現金及び現金同等物 の増減額	△ 315,917	128,827	392,716
現金及び現金同等物 の期首残高	1,553,910	1,161,194	1,161,194
現金及び現金同等物 の四半期末(期末)残高	1,237,992	1,290,021	1,553,910

# 第1回 削り節のミニパック包装

## 独自技術でフレッシュさをキープ。 ほぼ100%シェアを実現。



### 前史

当社の創業は昭和36（1961）年。自動包装機の販売部門として立ち上げられた東陽商事有限会社が前身です。翌年には、製造部門として株式会社ゼネラルパッカーを設立し、包装機の開発製造がスタートしました。当初より、インスタントジュースや小麦粉、砂糖、塩などの粉末状食品の包装をテーマとしていましたが、かつお節を削ったものを使い切りサイズにしたミニパック包装で食品業界をあっと言わせ、家庭の食卓に驚きを与えました。昭和53（1978）年のことです。

### 困難

このミニパック、今でこそ暮らしの中で見慣れた存在となっていますが、かつお節をあらかじめ削り、使いやすい分量だけパッケージするという発想は、当時画期的なもの。かつお節メーカーのニーズを受けて着手した包装機の開発には、多くの難所が待ち受けていました。

まず、被包装物である削り節の形状がバラバラで軽く、舞い上がりやすいこと。計量・封入に困難を極める食品なのです。さらに、削ったかつお節は短時間で酸化し、黄色く変色してしまうという問題がありました。

### 現在

当社は、こうした問題を解決するために、袋の中に入れた削り節の舞い上がりを抑制しながら、酸化を抑える不活性ガスを瞬時に充填して包装する技術を生み出しました。

こうして完成した削り節のミニパック用包装機は、またたく間にかつお節メーカーを席卷。現在では、削り節包装機分野でほぼ100%のシェアを占めています。また、不活性ガス充填技術は、その後多くの食品分野に応用されています。



## 会社概要・株式情報

### ■ 会社概要 (平成23年1月31日現在)

商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	昭和41年2月(創業 昭和36年12月)
資本金	2億5,157万7千円
事業内容	各種自動包装機・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理、それに附随する一切の業務
従業員数	114名
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺 神明65番地 Tel.(0568)23-3111(代) Fax.(0568)22-3222
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 三丁目5番地8 神田木原ビル4F Tel.(03)3256-3891(代) Fax.(03)3256-3893



### ■ 株式の状況 (平成23年1月31日現在)

発行可能株式総数	28,000,000 株
発行済株式総数	8,994,000 株
株主数	974 名

### ■ 大株主 (平成23年1月31日現在)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,314,000	15.00
高野 まさ子	650,000	7.42
原 淳	601,000	6.86
株式会社りそな銀行	392,000	4.47
高野 季久美	364,000	4.15
田中 かな	364,000	4.15
ゼネラルパッカー取引先持株会	296,000	3.38
安江 禎治	279,800	3.18
原 利子	224,000	2.55
島末 孝法	196,000	2.23

自己株式230,707株を保有していますが、上記大株主から除いています。

### 株主数構成比



個人-その他	943名	96.83%
その他法人	17名	1.75%
証券会社	9名	0.92%
金融機関	4名	0.40%
自己名義	1名	0.10%

### 株式数構成比



個人-その他	8,004,913株	89.00%
金融機関	500,000株	5.56%
自己名義	230,707株	2.57%
その他法人	166,400株	1.85%
証券会社	91,980株	1.02%

### ■ 取締役及び監査役 (平成23年1月31日現在)

代表取締役社長	梅 森 輝 信	
取締役	工 藤 誠 一	生産部長 兼 資材部担当
取締役	鈴 木 完 繁	営業本部長 兼 東京営業部長
取締役	小 関 幸 太 郎	管理部長
取締役	池 田 勇 次	技術部 兼 開発部担当
常勤監査役	余 川 善 明	
監査役	村 橋 泰 志	
監査役	浅 井 一 郎	

## □ 株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日
	期末配当金 7月31日
	中間配当金 1月31日
	その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目7番20号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 Tel. (052)261-1781(代)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載URL	<a href="http://www.general-packer.co.jp/">http://www.general-packer.co.jp/</a>

### 各種手続きのお申出先

- 未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。  
証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

## ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。  
今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。



<http://www.general-packer.co.jp/>

 包装システムのトータルプランナー  
**ゼネラルパッカー株式会社**

● 本社・工場  
〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地  
Tel. (0568)23-3111(代) Fax. (0568)22-3222

● 東京営業部  
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F  
Tel. (03)3256-3891(代) Fax. (03)3256-3893

